

趣味のひとつき オールディーズ

第10巻 曲名で振り返るオールディーズ

前は、スクリーン・ミュージックを取り上げましたが、今回は、オールディーズを曲名で分類してみました。

◆人名の曲

人名の曲はたくさんありますね。有名な曲では、「ミッシェル」「ダイアナ」「オー！キャロル」「シェリー」あたりでしょうか。ビーチボーイズに「ウェンディ Wendy」という曲がありますが、似た響きでアソシエーションの「ウインディ Windy」があります。「ヴィーナス」という曲もフランキー・アヴァロンとショッキング・ブルーの2曲ありますが、全く別物です。

男性が女性の名前を歌うのが一般的なパターンですが、女性が男性の名前を歌うパターンでは、マーシー・ブレインの「ボビーに首ったけ Bobby's Girl」やジョニー・ソマーズの「内気なジョニー Johnny Get Angry」などがありました。

◆数字の曲

数字の曲も「19 回目の神経衰弱」や「悲しき 16 歳」など多いですが、有名な曲はジョージ・マハリスが歌った「ルート 66」でしょうか。アメリカの主要幹線国道はルート XX と数字で表記されます。南北国道は奇数、東西国道は偶数で表記され、ルート 66 はイリノイ州シカゴとカリフォルニア州サンタモニカを結ぶ東西方向の国道になります。ちなみに日本の住所表示は＜区画＋番地＞ですが、欧米の住所表示は＜番地＋道路名＞が一般的です。これは欧米人が狩猟民族で、馬に乗って狩りに行く時頼りになるのは道で、道路を基準とした生活だったのに比べ、農耕民族の日本人は“オラの田んぼは、こっから、ここまでだあ…”と区割りを基準とした生活だった違いによるのではないかと個人的に考えています。蛇足ですが、欧米人は平気で道を歩きながら物を食べます。日本人は“お行儀が悪い”と躰けられますが、この違いも欧米人は狩りをした獲物をすぐ食べないと腐ってしまうので、馬に乗りながら、道を歩きながら急いで食べ、日本人はお米を蓄えていて、いつでも食べられるので、落ち着いて座って食べる習慣の違いによるのではないのでしょうか。

◆長い曲名、短い曲名（英文）

世界一長い英単語は“SMILES”と言われます（S と S の間が 1 マイルもある）が、私の知る限り、1960 年にブライアン・ハイランドがヒットさせた「ビキニスタイルのお嬢さん」の英文タイトル「Itsy Bitsy Teenie Weenie Yellow

Polka-Dot Bikini」が長い曲名の代表でしょうか。逆に短い曲名では、ジャクソン・ファイヴの「ABC」、スリー・ドッグ・ナイトの「One」、レン・バリーの「1-2-3」やブレッドの「If」があります。曲の演奏時間の長さですが、オールデイズ初期は殆どが2分台でした。例えばポール・アンカの「ダイアナ」（1957年）は2分15秒です。それが次第に長くなり、ビーチ・ボーイズの「グッド・バイブレーション」（1966年）を聞いた時、なんて長い曲（3分36秒）だろうと思いました。しかし、クラプトンの「いとしのレイラ」はフルバージョンで7分を超えます。個人的にはインスタントラーメンが煮える3分くらいがよろしいのでは…と思います。

◆曜日の曲名

シカゴの「サタデー・イン・ザ・パーク」は米国の建国記念日（Fourth of July）のセントラル・パークを歌った曲で、1970年7月4日（土）の様子だと思われます。他にはスパンキー&アワ・ギャングの「想いでの日曜日」、ローリング・ストーンズの「ルビー・チューズデイ」等があります。チューズデイと言えば、アメリカの選挙投票日が日曜日でなく、火曜日なのは何故なのでしょう。調べてみたら、「日曜日はキリスト教徒にとっては安息日で投票に出かけると安息日にならない。月曜日を投票日にすると遠方の人々は馬車で前日の日曜日に移動しなくてはならず、やはり日曜日が安息日にならない。火曜日ならその問題が解決される」ので火曜日になったそうです。今どき馬車で前日に移動する人はいないと思いますが（笑）、建国以来の慣習が残っているのですね。

◆日本語の曲名

1955年アーサー・キットが歌った「Sho-Jo-Ji」は「証城寺の狸囃子」です。別タイトルが「ハラペコ狸 The Hungry Raccoon」で、メロディはそのままですが英語の変な歌詞で歌っていました。アーサー・キットは、この他、江利チエミがカバーした「ウスクダラ」（トルコ語の歌詞）のような一風変わった歌を得意としていました。他にはハワイアンソングの「Chotto Matte Kudasai（ちょっと待ってください） Never Say Goodbye」と言う曲があり、ハワイの歌手ドン・ホー他が歌い、日本でもマリア・エバ・ルナのゴールデン・ハーフがカバーしました。

◆地名の曲

有名なのはパティ・ペイジのテネシー州の州歌にもなっている「テネシー・ワルツ」でしょうか。州の名がついた曲ではレイ・チャールズの「我が心のジョージア」があります。ジョージアと言えば黒海東岸のグルジア共和国の英文表記がGeorgiaで、ジョージア州と同じです。“グルジア”はロシア語の発音らしく、近年同国は、世界各国にグルジアでなくジョージアと呼ぶよう求め、日本政府も2015年からジョージアと呼ぶことに決めたそうです。余談ですが缶コーヒーの

「ジョージア」は販売元のコカ・コーラの本社がジョージア州アトランタにあることが由来だそうです。

いかがでしたか、そう言えば、そんな曲もあったな…と懐かしんで頂けたでしょうか。次回はいよいよ最終回となります。内容は読んで頂くまでのお楽しみにさせてください。

<モスクワのホット・チョコレート>

ジョージアで思い出しましたが、ビートルズの「バック・イン・ザ・USSR」の歌詞にも“ジョージア（グルジア）”が出てきます。“マイアミ・ビーチからBOACに乗ったんだけど、ひでえフライトでさあ、眠れやしねえんだ。一晩中エチケット袋抱えて、死にそうだったぜ。”“やっぱり、（ヤンキー娘より）ウクライナやモスクワの姉ちゃんがいいねえ。グルジアの姉ちゃんなんか最高だぜ…”てな歌詞です。グルジアには行ったことはありませんが、モスクワには出張で何回か行ったことがあります。或る日、寒かったので暖かい飲み物を求め、喫茶店に入りメニューを見ると「ホット・チョコレート」があったので注文しました。出された物を見てビックリ。何と、コーヒーカップの底に、溶けかけた板チョコが数枚入っていたのです。“確かに、これはホット・チョコレートだけど、普通はココアのことを言うんじゃないの？”と、同行者とボヤキながら、スプーンでカップの底のチョコレートをすくって食べました。少しも身体はホットになりませんでした（笑）。